

「聞書 大地震並ニ出火の次第」(口絵解説文)

(東京大学社会情報研究所蔵 小野秀雄コレクション地震 No. 19)

(文中の／は改行を示す)

山城 勢州／大和 三河／江州 越前／聞／
書大地震(じしん)並ニ出火の次第／
南都廿三日迄ニ八十五度ノゆり寅六月十四日
夜八ツ時よりゆり始メ明六ツ時迄少々／ふる
ひ十五日朝五ツ時より大地震ニて町家一軒
も／無事なるハなし家内ニ居る事ならず
皆々／野宿明地などにて夜をあかし往来人一
人も／なく目もあてられぬ次第なり／二十一
日夜五ツ時田利旧坂町西方寺本堂／くだけ高
畑神主高へいのこらず其外家数／くすれたる
家かすしれず死人少々在之／死人三百五十
人／けが人横死其数をしらず／
伊賀上野／同十四日夜七ツ半時地震あれきつ
く御／城大手御門大損じ町々在々家々たを
れ／其外出火ニて焼失嶋ヶ原と申処五十丁／
四方螺のためニ泥海の如く相成人家損し／た
る数しれず中々あわれなる事目も／あてられ
ぬ次第也おそるべしおそるべし／
江州石部／同十四日同刻の地震ゆり出し／
所々人家いたミ少々ツゝあれたる／所あれど
も略之／
水口土山庄の薬師／同十四日同刻の地震大ゆ
りニてハ／無之候へとも両宿すこし損シ／る
ゆえ此所ニ書いだす／
龜山／同日同刻のゆり出し西辺ニて／少し家
などそんなかくべつ／の大あれニてハ無之
候／
三河岡崎／同日同刻のゆりいだしにて／東の
辺ニて少し人家いたみ／度々ゆれども事かる
し／
京大坂紀州丹波丹後／尾州美濃木曾海道筋／
並ニ信州江戸無難ニ御座候／右之国々京大坂
同時同様の地震也／廿三日までしらせの事／
勢州四日市／六月十四日夜四ツ時ゆり始六ツ

時より大地震ニ成／家数五百軒余崩れ昼五ツ
時より出火ニて／家数四百けん余焼失／死人
凡三百四十五人／しれざる人五百五六十人／
和州古市／同日同刻の大地震ニて池われ人
家／多分くづれ死人六十七人けが人／数しれ
ずのこる家数三軒ばかりより／これなく義ニ
御座候／
江州信楽／六月十三日大雨雷鳴事きひしく
翌／十四日大地震ニて町々あれ人家たをれ／
家数凡百三十軒斗土蔵たをれ十八九戸／まへ
けが人即死かすしれず／
ぜゝ御城下並ニ石場／十四日同刻大地震ニて
御城北北ノ大手出火ニて／御ぼたい所焼失い
たし候事其外御構高へい／こすいへをちこミ
大へんの事也又石は舟のり／ば大石とうろう
こすいへたをれ横死の人／もあり余ハ右ニ准
しはそん所多し／
和州郡山／六月十四日夜九ツ時少々ゆり始八
ツ時ニ大地震／柳町壱丁目より同四丁目迄家
数凡三十八軒くづれ／同十八日廿一日六ツ半
ニ又ゆりかへし八十五度のゆり／市中凡三分
通り家くづれ其外なら同ゆり也／死人凡百式
三十人ばかり／
越前福井／六月十三日昼五ツ時より出火ニて
城下不残焼失／其朝大風ニて九十九ばしより
二百町斗り両本願寺／寺院百ヶ所焼失近在凡
十ヶ所焼失／夜四ツ時ニしづまり申候／又十
四日夜八ツ時より大地しんにて田地など／も
泥海ニ成所々の家くづれ死人凡四五十人／誠
に誠に其混乱筆ニつくしがたし十六日／くれ
方迄ニ大小六十七八度ゆる恐ろしきしだい／
勢州四日市／伊賀上野／越前福井

(袖) 嘉永七寅年六月本しらべ

(解説: 北原 糸子)